

地域の活動もさらに強めよう!

日退教通信

No. 355

2014.11

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館5F
発行責任者 竹田邦明
TEL 03(52775)2197 FAX 03(52775)2081
Email nitralkyo@gmail.com 〒4ページURL http://www.nitralkyo.com

第20回「日退教組織活動交流集会」10月17日

西澤会長は主催者挨拶で次のように話しました。

私は憲法に特別の思いがあります。疎開先で敗戦を迎えたが、学校から帰ったら母が「清、戦争は終わったよ」と言ったこと、担任が、「新しい憲法ができたよ」と言われたことなどです。それにしても、昨日の(山

14年度・第20回組織活動

日本退職教職員



西澤会長



喜友名沖繩高退教会長

口二郎さんの)話にあった「劣等感ゆえの攻撃性」でやられたのではなかったものではありませぬ。「アベノミックス」の三本の矢はことごとく失敗しています。デフレ克服での経済立て直しは歴史上ありません。貿易収支は戦後最大の赤字、GDPは▲7・1%の落ち込み、消費税の引き上げには、これを上回る労働者の賃上げがなくてはならないが、これはマイナスです。また、少子化による労働者不足を、女性と外国人で補おうとしています。簡単にはできない

ものではありません。女性の輝く社会、地方創生と言いますが、安倍首相の周りに輝く女性はいません。地方自治担当の自治省には、地方の実態に関する危機感など感じられません。今、特に大事なものは、11月16日に投票の沖縄知事選です。政府与党の沖縄締め付けは厳しいものがあります。これをはねのけて、何としても「おなが雄志」当選により、安倍政権に一矢を報いることです。これを突破口に、来年の統一地方選、さらに国政選挙の勝利へとつなげていくことはありません。続いて、来賓の日教組・加藤良輔委員長は、「10年前神奈川で街頭宣伝に立った時、年配の女性から「あなた方はなぜ戦争で命を落とした英霊を祀る気がないのか」ときつく言われました。反論はせず、「私の叔父も戦争で亡くなっている」とだけ言いました。本当は「アジア諸国の独

立を助けるためと言いながら多数の無辜の人々の命を奪った」ことを語りたかったが、話しませんでした。ところで、あの無謀な戦争をした責任を誰もとらない、「自分の意志で始めた」という人はいない、ということはどういうことなのでしょう。侵略しておいで、後は知らない、ということが許されるのでしょうか。同じ過ちは二度と繰り返してはなりません。語るべき共通の物語を持つてはいないのではないかと。語り継いでいくべきことは語り継いでいかなければなりません。」と挨拶しました。(中村謙教職員共済理事長、木下哲郎相互共済会理事長の挨拶は省略します) このあと、「反基地・民主主義・平和を求めて」と題し、沖縄高退教会長・喜友名 稔さんから特別報告があり、さらに「沖縄知事選勝利・辺野古基地建設を止めよう!」の特別決議が提案され、満場一致採択いたしました。 ※なお、特別報告、特別決議等は、参加者に配布いたしますし、ホームページをご覧ください。

分科・分散会の報告

第1分科・分散会

「平和・組織」

◆レポートの題名

1 「安倍首相による『戦争する国づくり』に反対するとりくみの報告」

2 「郡山の子どもたちと遊ぶ会」への参加活動報告」

熊谷憲治（埼玉退教）

「上里町と双葉町にかかる虹」丸山道雄（埼玉退教）

3 「組織拡大を展望して」平野直比古（千葉退教）

4 「島根原発再稼働をめぐるたたかい」池原 稔（島根退教）

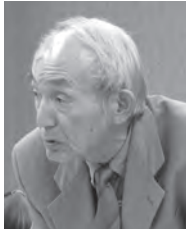
5 「戦前・戦中・戦後を生きたぬいた教職員『手記』編集の取り組み」仲宗根寛勇（沖縄退教）

◆討論

北海道退教からは、集団的自衛権行使に反対する取組みが報告された。釧路市退教は、行



北海道 古川さん



埼玉 熊谷さん



埼玉 丸山さん



千葉県 平野さん

動する北退教の指針に基づいて教え子を再び戦場に送るなどの誓いを日々新たに、道東の地でも現退一致での取組みを進めて来た。

7月1日の、閣議決定に反対する官邸前抗議行動への参加7月8日の、陸上自衛隊の十勝浜大樹揚陸訓練阻止のたたかいへの参加。8月24日の、米海兵隊の矢白別実弾演習反対集会への参加など、生々しい実態と、それに対峙する具体的なたたかいが語られた。神奈川県からは御殿場演習の実態、京都・鹿児島からの活動も紹介された。

埼玉退教からの2本のレポートは、いずれも被災地福島と退教の心温まる交流の話題。人間支部からは、郡山の子どもたちを坂戸市に招いて、8月2日〜6日まで開催した「遊ぶ会」の報告。事故後外へ出ることの



島根県 池原さん

少なくとも子供もたちが大喜びした様子が紹介された。行政と密接な連絡を取りながら、広範な市民・学生・ボランティアに協力して頂いたとのこと。退教会員が市議会議員でもある希有な例。

児玉支部からは毎年開催している「生涯展」や、春・秋のバス旅行などを通しての、被災された双葉町の方々との交流・連帯。「現地の方々との交流を通じて、福島に関心をもち続け、被災者に寄り添って行きたい」とも綴られたレポート。福島や沖縄の抱える問題は、実は日本の問題であるとの発言が相次いだ。

千葉県退教からは、組織拡大に奮闘している現状が報告された。具体的には千葉退教への加入を呼びかけるのがきを270枚郵送。ある支部では、この5年間に退職された方の名簿を見ながら、支部の書記長と、実りある話し合いもした。



沖縄県 仲宗根さん

「戦争をさせない千人委員会」結成に向けての集会が開かれ、市川支部においても、12月13日の結成集会に向けて準備を進めている。

島根退教から島根原発再稼働をめぐるたたかいの報告。島根原発は現在では「県庁所在地」に存在する唯一のもので、松江市役所は原発9キロの至近距離。30キロ圏内には40万人が生活している。その様な状況下で中国電力は2・3号機の再稼働を要請。原発から2・5キロには、活断層「宍道断層」が存在し、危険極まりない。

一方、千葉市内では9月10日に350名の参加者を集めて

第2分科・分散会

「教育・人権・組織」

◆レポートの題名

1 「再任用者」の組織化

木村昭雄（新潟高退）

2 京都退教再建のとりくみ

大江矩夫（京都退教）

3 組織拡大・強化と退教協の目的

河下卓司（愛知退教協）

4 組織強化の中で拡大を

中山士郎（長崎県退教協）

にも関わらず、松江市長は「再稼働容認」の考えを示している。そんな状況下、2014年7月、「さよなら島根原発！大集会」を開催し、デモ行進し市民にアピールをした。

運転差し止めを求める裁判も提訴している、とのこと。石川・宮城・鹿児島退教からも様々な闘いが語られた。

沖縄退教からは、レポートに先立ち、沖縄の政治状況、即ち、安倍政権の方が苦戦に陥っている状況が語られた。辺野古の市民の意識も大きく変化している。基地建設反対集会には主催者発表で4000人も参加者がいた。組織動員以外に自発的参加者が多数。これは今回の知事選に間違いなく反映される。知事選に勝利するならば、この沖縄の闘いは、日本全体の大きな闘いに繋がるだろうと力強く語る、沖縄退教の確信に満ちた発言から、多くの参加者が勇氣と元気を貰ったことだろう。

原発反対の問題も沖縄の問題も戦争反対の取組みも、私たちの人権を守る闘いで、基盤は共通と認識して、多くの方々の力を結集し、退教の組織の総力を挙げて、ともに頑張ろうと、会議は締めくくられた。

5 平和憲法を生かした教科書採択を求める運動

大林浅吉（香川退教協）

◆討論

新潟高退のレポートは退職者への働きかけである。2013年度末新潟高組合員の退職者数は55人で再任用希望者は29人である。取り組みの結果、新潟高退加入者は17人で、年度末退職者は15人でそのうち再任用者は4人であった。年度末退職者に対しては、現退ともに組織化の対象としているが、再任用者に対しては、現職組合が継続組合員の確認をした後に高退が加入の勧誘をするために名簿を手に入れるのが遅くなり、働きかけが困難である。

京都退教のレポートは教組の再建からの取り組みである。1990年、「きょうと教組」を再建し、現在はその書記局を退教6人体制で支援している。パート書記局員として執行委員等々の会議レジメ・議案作成、

組合機関紙作成、集会等の企画・参加等の活動をおこなっている。

愛知退教協のレポートは、「現退一致」による運動が、組織の拡大・強化が重要であるとしている。毎年おこなっている海外旅行への親睦旅行は、今年度ポルネオに30名が参加した。「東日本大震災」災害救援連帯カンパは独自でも実施し、今年度も復興状況の視察と現地校へのカンパを届ける活動をおこなってきた。

長崎退教協のレポートでは会員数の減少である。その原因は現職組合員の減にあるとしている。組織活動の現況として年1回の定期総会など諸会議の開催、国内外の平和親睦の旅、退女教との合同学習会、広報誌の発行、新規退職者への加入の取り組み、他団体との連携した活動、選挙活動などがある。

香川退教協のレポートは県教委の「育鵬社」の教科書採択に対して「平和憲法を生かした

教科書採択を求める「県民署名の取り組みである。2011年に県立の中高一貫校で「育鵬社」の教科書採択を決定した次年度に「香川の子どもと教科書ネット

」の会を結成し、2013年には署名活動で2万2414筆を提出して交渉した。2014年にも2万2029筆を提出して交渉してきた。

第3分科・分散会

「福祉・文化・組織」

◆レポートの題名

①「未来をひらくむらづくり」豊かで美しい明日を、今ここに創ろう」

原尻 薫（大分県退現教）

②「誕生カードのとどろくみ」

北島 義久（北海道退教）

③「組織拡大を図るためにも第8回愛好祭を成功させよう」

大賀 滋（茨城県退教協）

④「組織拡充に向けたとどろくみ」

宮崎 公正（福井県退教）

◆討論

大分退教は、高齢化率47%の集落の中で、クリーン活動、文化祭、映画の夕べ、広報発行、供養盆踊り、文化財巡り、枝豆狩り交流会、カブトムシ木登り大会等を行いむらづくりの取り組みを報告したが、1人でも、やれることをやるのが大切で

ある。

北退教は、1983年から絵を描いた誕生カードを送り、現在は喜寿以上の会員4千名に送っている。個人差はあるが、かなりの高齢になると、諸集会・レクへの参加が少なくなるので、機関紙・会報・誕生カードを75%の手配り含め配布している。課題は、1回のカード作成と送料で50万円ほどかかることだ。

茨城退教は、内容の充実とよりよい人間関係を構築することに焦点を当て、愛好祭を開催している。10の活動は、観劇、詩吟、パソコン、ダンス、園芸、写真、ゴルフ、拓本、囲碁、レザークラフトである。作品を持ち寄ることが出来ない場合は、60代の仲間が手伝っている。

福井退教は、退職者の退教への加入率が低下しているのを、拡充の取り組みとして、生きがいづくり支援の通信発行、交流・深部区旅行、研修会、子どもの教育支援として現職と協力して活動している。やはり、会員が家庭訪問をして顔を合わせ、新聞・パンフ配布や署名の要請をすることが大切である。

まとめ…第3分科会では、組織拡大を中心に話し合いました。午前中、組織部会長の話がありました。しかし、日退教総体としては会員数が微減の状態が続いています。会員数は18単会で増えているという報告がなされました。これが今の日退教の現状です。そういう意味で組織拡大は永遠の課題となっています。今回の話し合いでも拡大のアイディアはなかなか出て来ません。それぞれの地域で工夫して会員をいかに増やすかという取り組みが行われている訳ですが、引き続き地域にあった組織拡大の取り組みに力を入れていただきたいということです。今日のレポートのなかにもありましたが「入って良かったな」という会になっていくかどうかが、もう一度原点に戻って考えてみる必要があります。



愛知 河下さん



新潟高 木村さん



長崎 中山さん



京都 大江さん



香川 大林さん



大分県 原尻さん



北海道 北島さん



茨城 大賀さん



福井 宮崎さん

子どもたちとも交流を深める

第1回東アジア海外研修旅行 報告

10月23日～27日

今回は、交流と3つの世界遺産を巡る旅として、中国の西安・洛陽・少林寺に行きましたが、好天にも恵まれ大変良い旅になりました。

交流では、興慶公園に

ある阿倍仲麻呂記念碑前で、短歌、俳句などお互いに自作の作品を詠唱しあい、その後、参加者と学生たちが、日本のこと、学生生活のこと等それぞれ話し合いをしました。西安老年大学閩中書院では、特別に招待学生として、学生用のバッジをつけて入学し、授業を見学した後、書道・切紙の実演を間近に見ることが出来ました。西安鉄五小学校では、中国の卓球がなぜ強いかが納得することが出来ました。その後、教職員・子どもたち3名と



阿部仲麻呂記念碑前で

交流をしました。が、私たちの質問に、子どもたちは、物おじすることなく、すぐ的確に答えていたのには、感心しました。

観光では、大雁塔、陽光麗都大劇院での唐歌舞ショー、龍門石窟、少林寺、兵馬俑、華清池、西の城門を見学しました。今年6月に

大雁塔とシルクロードが世界遺産に登録されましたので、全部で5つの世界遺産を見ることが出来ました。交通では、西安の地下鉄、西安と洛陽間往復の高速鉄道、2階建てバス、船、観光地内でのオーブンバスなど楽しむことが出来ました。

夕食交流会では、陝西省職工対外交流センター、陝西省教育工会の皆さん方にお世話になりましたし、添乗員として(株)グロシーズ・サポーツ 旅・風土記の尾崎明子さん、通訳としての交流センターの張興岐さんには全日程、大変お世話になりました。

2015年10月上旬には、第2回東アジア海外研修旅行を行います。敗戦70年(朝鮮解放70年)、日韓条約締結50年、閔妃暗殺120年の年にあたり、韓国を訪問します。一般のツアーとは全く異なる案を計画していますので、韓国へ行ったことのある方でも、ぜひ参加することを期待します。

◆編集後記◆

安倍首相が今年の4月にA級、B級戦犯の法要に「自らの魂を賭して祖国の礎になられた」といった哀悼メッセージを自民党総裁名で書面を送ったという記事を朝日新聞記事(2014.8.27)で知った。送付先は、高野山真言宗の奥の院(和歌山)にある「昭和殉難者法務死追悼碑」の法要であった。この碑は連合国による処罰を「歴史上世界に例を見ない過酷で報復的裁判」とし、戦犯の名誉回復と追悼を目的に、元将校や処刑された軍人の遺族らに寄付を募って、1994年に建立された。そこには東条元首相らA級戦犯14人の名前が刻まれている。

戦争指導者を「殉難者」とすることは、多くの国民は受け入れることはできないのではないかと。菅官房長官は会見で、安倍首相の私人としての行為であるとし、「日本は1951年9月8日調印したサンフランシスコ平和条約で東京裁判を受諾し、主権を回復した」と述べている。戦後69年を経てもこのような表明を内外に示さなければならぬとは……。

このような歴史認識の首相が、積極的平和主義と言い「集団的自衛権行使容認」、「武器輸出三原則」の廃止、「特定秘密保護法」12月10日施行」などの施策を次々と強行している。私たちの力で何としても「いつか来た道」を繰り返すようなことを阻止しなければならぬ。

(な)